

第27期第14回東大和市立公民館運営審議会 会議要録

- 1 日時 令和7年2月13日(木) 午後2時～4時
- 2 場所 東大和市立中央公民館 301学習室
- 3 委員 (出席者)佐々木会長、増本副会長、浜田委員、津嶋委員、若野委員、相澤委員、新井委員
橋本委員、岡田委員
(欠席者)吉村委員、大島委員、豊田委員
- 4 事務局 (出席者)伊藤中央公民館長、内藤南街公民館長、森田狭山公民館長、宮田蔵敷公民館長
西田上北台公民館長、佐野主任
- 5 傍聴者 0人
- 6 次第 (1)審議事項
 - ①「公民館における Wi-Fi を活用した事業の展開と子どもの居場所づくりについて」(答申)の振り返りについて
 - ②次年度公民館の重点目標について(2)報告事項
 - ①東京都公民館研究大会の参加報告について
 - ②東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会定例会の参加報告について
 - ③公民館運営審議会委員研修会の参加報告について(3)その他

7 会議資料

- ・第27期第14回会議次第
- ・「公民館における Wi-Fi を活用した事業の展開と子どもの居場所づくりについて」(答申)
- ・令和6年度東大和市公民館重点目標
- ・令和7年度東大和市公民館重点目標(案)
- ・東京都公民館研究大会の参加報告資料
- ・東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会定例会の参加報告資料
- ・西東京市公民館だより2月号
- ・こうみんかんだより1月1日号
- ・南街公民館市民企画運営講座街づくり懇談会

8 議事要旨

(1)審議事項

- ①「公民館における Wi-Fi を活用した事業の展開と子どもの居場所づくりについて」(答申)の振り返りについて
会長から、この答申は委員の審議内容を基に最終的に若干の文言修正を加えて提出したものであり、今回の審議では答申の内容を改めて確認し、「もっと強調したかった点」や「次年度の重点目標に活かしたい意見」などを委員から伺いたい。答申自体を変更するわけではないが、今後の活動に向けたご意見をいただくための時間としたい。

(委員からの主な意見)

- ・「Wi-Fi 活用」と「子どもの居場所づくり」の連携が十分に示されておらず、内容としてやや不十分な印象になってしまった。
- ・子ども目線が不足しており、大人側の「こうあるべきだ」という視点が強すぎた。子どもが公民館に何を望

んでいるかをもっと反映させるべきだった。

- ・子どもたちが望むこと(大人が考えつかないようなこと)を提供しなければ、子どもたちは公民館に来ない。子どもたちの真のニーズに応える事業が居場所づくりに繋がる。
- ・「遊空間」のような子どもが楽しめる事業は、自然な形で子どもの居場所づくりに貢献している。
- ・Wi-Fi環境が整ったことを、市報やLINE公式アカウントなど、より広範な媒体で大々的にPRすべきだ。
- ・デジタル化は目的ではなく、あくまで活動を促進するための「手段」である。大人がまずWi-Fiを活用する姿を見せることが、子どもたちへの波及に繋がるのではないか。

(審議の結果)

議論を通じて、Wi-Fiはあくまで手段であり、今後は広報活動(市報、学校の「マチコミ配信」等)を強化し、利用を促進していくことの重要性が確認された。

②次年度公民館の重点目標について

この目標は、各公民館が具体的な事業を企画するための大まかな指針であり、そのため、あえて抽象的な表現となっている。今回は、前年度の目標から「利用者層をより包括的な表現に見直す」「ヒガシヤマト未来大学の項目を削除する」等の変更が加えられた。これらの変更点を踏まえ、次年度の目標として適切か、意見が述べられた。

(委員からの主な意見)

- ・目標案2(1)イの「ソーシャルメディアを活用したPR」は前年度から継続されているが、実績は十分か。市の公式SNSに埋もれないよう、公民館独自のSNSアカウントを持つなど、独立した情報発信が必要ではないか。
- ・目標案2(5)「インターネット環境を活用した学習を推進」について、前年度から内容が変更しているのか。特に「学習形態に対応する」という文言への変更意図を明確にすべき。
- ・「ヒガシヤマト未来大学」事業の終了理由が、目的を達成したことによる「発展的解消」であると捉えて良いか。
- ・会員減少に悩むサークルの支援として、活動内容がわかるようなグループ名称への変更を公民館が助言することや、広報物での活動内容併記など、「可視化」を推進すべきだ。
- ・国や都の動向(学びのセーフティネット、DX推進等)を踏まえ、公民館として「デジタルアーカイブ」「リカレント教育」等の先進的なキーワードを目標に盛り込むことで、「東大和らしさ」を出すべき。

(審議の結果)

会長、副会長、及び事務局が中心となり、本日出された意見を基に、最終的な文言の調整ととりまとめを行うことが決定された。

(2)報告事項

①東京都公民館研究大会の参加報告について

- ・近年の文部科学省の方針が、単なる「生涯学習」から「地域づくりを支える公民館」へと変化しているとの指摘があり、行政改革が進む中、公民館が生き残るためには、単なる趣味の場から「なくてはならない学びあいの場」へと変わっていく必要がある、その意識改革が急務であるとの厳しいコメントがあった。
- ・過去の失敗を活かして今日頑張ることが未来につながると感じ、「人が少ないから」と諦めるのではなく、一人でもやる気があれば活動は広がると強く思った。

・若い世代が公民館に高いポテンシャルを感じている事例に触れ、地域に戻って「東大和ならではの」の公民館のあり方を考えていく必要性を感じた。

②東京都公民館連絡協議会委員部会運営委員会定例会の参加報告について

・都公連の各事業における職員の負担軽減が大きな課題となっており、直近の研究大会で課題別集会在省略されたのもその一環である。情報交換会では、各市で「複合施設」化の動きが活発化していることが共有された(小平市、国分寺市、狛江市など)。特に国立市では、公民館運営審議会の答申内容について市民報告会を開催し、意見を募るといった先進的な取り組みが行われている。

③公民館運営審議会委員研修会の参加報告について

・伊東静一氏を講師に迎えた研修会について、委員から事務局へ報告書が提出されたことが共有された。

(3)その他

- ・南街公民館で来週開催予定の市民企画「街づくり懇談会」(第4回)が、定員不足のため中止になる可能性がある。参加者を緊急で募集している。
- ・グルメ研究発信の会の活動報告と巡回展示の協力依頼があった。
- ・資料として添付した「西東京市の公民館だより」は、同市が中学生・高校生を巻き込んだ公民館活動に熱心に取り組んでいる事例の参考資料である。

次回会議予定：令和7年5月8日(木) 午後2時～ 中央公民館 視聴覚室